

論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表

学位規則第8条に基づき、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

フリガナ 氏名(姓、名)	マツモト サトミ 松本 理美		授与番号 甲 1527 号
学位の種類	博士(文学)	授与年月日	2021年 9月 25日
学位授与の要件	本学学位規程第18条第1項該当者 [学位規則第4条第1項]		
博士論文の題名	外国ルーツ高校生を含む『高校生日本語作文コーパス』の構築と計量的研究		
審査委員	(主査) 小椋秀樹 (立命館大学文学部教授)	有田節子 (立命館大学大学院言語教育情報研究科教授)	
	岡崎友子 (立命館大学文学部教授)		
論文内容の要旨	<p><b>【論文の構成】</b></p> <p>本論文は、2部7章で構成されている。序章に続き、I部でコーパスの設計・構築について、II部でコーパスを活用した接続節の計量的分析について述べ、終章で本論文をまとめる。I部は「第1章 コーパスの設計と構築」「第2章 接続節アノテーションにおける用法分類基準の策定」の2章で、II部は「第3章 高校生作文と国語教科書における複文の計量分析」「第4章 高校生作文と国語教科書における連体節構造の分析」「第5章 高校生作文と国語教科書におけるテ形節の特徴」の3章で構成されている。</p> <p><b>【論文内容の要旨】</b></p> <p>外国ルーツ高校生とは、外国で生まれ、日本語以外の言語を母語として育ち、親の仕事や結婚等により、親に伴って来日した高校生を指す。外国ルーツ高校生は、留学生とは異なり、体系的な日本語教育を受けておらず、日本語能力が不十分なまま高校で学び、卒業する。そのため、就職率、進学率とも高くないという問題を抱えている。今後、外国ルーツ高校生の増加が予想されるが、その日本語能力に関する実態は明らかにされておらず、データ収集とそれに基づく実態解明とが必要な段階にある。</p> <p>申請者は、外国ルーツ高校生の日本語能力を明らかにするため、外国ルーツ高校生を含む高校生の日本語作文を収集し、『高校生日本語作文コーパス』(以下、『作文コーパス』と略す。)を構築した。本論文では、I部で『作文コーパス』の設計・構築について詳述し、II部で構築した『作文コーパス』を活用し、接続節の計量的分析を通して接続節の使用実態とその特徴について明らかにした。</p> <p>I部・第1章では、『作文コーパス』の設計・構築について述べた。『作文コーパス』は、外国ルーツ高校生、留学生、日本人高校生の作文(282編)と小・中・高の国語教科書掲載の説明文・論説文等(22編)とから成る。『作文コーパス』の作文収集方法、電子化の基本方針等を述べた上で、語数、品詞・語種構成比率等の基本的なデータを示し、コーパスの全体像についても概観している。</p>		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">論文内容の要旨</p>	<p>I部・第2章では、『作文コーパス』に付与した接続節情報の用法分類基準について述べた。基準の策定には、英語—日本語自動翻訳のために構築された「鳥バンク」節間意味分類基準を用い、これを日本語の接続節の分類に特化して修正した。</p> <p>II部・第3章では、高校生作文の複文構造の分析を行った。高校生作文全体では連体節の比率が低く、連用節が多用されていること、外国ルーツ高校生の作文では連用節の中でもテ形節の連鎖が多く、話し言葉のような文体であること等を明らかにした。</p> <p>II部・第4章では、高校生作文における出現比率が顕著に低い連体節を取り上げ、出現比率と連体節構造との関係について分析を行った。国語教科書では学校種が上がるにつれて補足語修飾節が減少し、命題補充節・相対名詞節が増加すること、一方、高校生作文では補足語修飾節の比率が高く、命題補充節・相対名詞節の比率が低いことを明らかにした。また、命題補充節の主名詞についても国語教科書に比べて抽象名詞が少なく、同じ語を多用する傾向のあることを明らかにした。</p> <p>II部・第5章では、外国ルーツ高校生の作文で多用されるテ形節を取り上げ、分析を行った。国語教科書では用法によって異なる接続節を用いるのに対して、外国ルーツ高校生の作文ではテ形節が様々な用法で用いられ、更にその多様なテ形節が多重に連鎖して用いられていることを明らかにした。テ形節の連鎖は、話し言葉の特徴として指摘されるものであり、接続節が文体特徴を捉える指標になり得ることを指摘した。</p> <p>終章では、高校生作文、国語教科書における接続節の特徴を整理した上で、今後の課題・展望としてコーパスの拡張等について述べ、全体を締めくくった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">論文審査の結果の要旨</p>	<p><b>【論文の特徴】</b></p> <p>本論文の特徴は、申請者が構築した『作文コーパス』の設計・構築、アノテーション基準について詳述した点、同コーパスを活用して節構造から高校生作文、国語教科書の文体特徴を明らかにし、更に接続節が文体特徴を把握する指標になり得ることを示した点にある。</p> <p><b>【論文の評価】</b></p> <p>本論文で評価すべき点は、次の2点である。一点目は、コーパスの構築とその活用とを実践した点である。近年、コーパスを活用した日本語研究が活発になっているが、コーパスの構築とその活用の両方を実践する研究者は少ない。そのような中、申請者は両方を実践した。また、申請者はコーパスを構築するだけでなく、その設計・構築についてI部で詳述している。特に、第2章の接続節アノテーションの用法分類基準は、数多くある接続節に関する先行研究を理解した上で、実データを読み込みながら策定したものである。厚い蓄積のある文法研究と実例の分析に立脚した基準として、今後のコーパス構築でまず参照されるものになると考えられる。</p> <p>二点目は、高校生作文、国語教科書における接続節の使用実態、及びその特徴を計量的な観点から明らかにするとともに、接続節が文体特徴を把握するための指標になり得ることを示した点である。従来の文体研究では、語彙的側面からテキストの文体特徴を把握しようとしてきた。申請者はII部の第3章から第5章の分析を通して、接続節という文法的側面も文体特徴を把握する新たな指標となることを示した。これは、文体研究において画期的な知見の提示であるとともに、『作文コーパス』に付与した接続節情報の有用性をも示すものである。</p>

<p>論文審査の結果の要旨</p>	<p>なお、小・中・高の国語教科書を高校生作文の比較資料とすることの適切性に関する説明に不十分な点のあることが指摘されたが、申請者は先行研究を踏まえつつ補足説明を行い、適切に対処した。また、本論文の次の展開に関する問いにも適切な回答を行い、それによって本論文の日本語教育への貢献、意義が明確となった。</p> <p>以上、公開審査とそれを踏まえた審査委員会判定会議の議論により、審査委員会は本論文が本研究科の博士学位論文審査基準を満たしており、博士学位を授与するにふさわしい水準に達しているという判断で一致した。</p>
<p>試験または学力確認の結果の要旨</p>	<p>本論文の公開審査は、2021年7月1日17時から19時まで、衣笠キャンパス清心館地階SE002教室で行われた。</p> <p>審査委員会は公開審査において、本論文の主要部分であるコーパス構築、接続節の計量的分析に関わって、申請者のコーパス構築に関する知識、接続節の認定やその用法分類といった文法研究上の重要な問題について試問し、それぞれ十分な回答を得ることができた。また、本学大学院文学研究科人文学専攻博士課程後期課程の在籍期間中における学会や研究会への参加や発表などの様々な研究活動の学問的意義、及び本論文執筆との関わりについても質疑応答を実施した。それらを通じて申請者が博士学位にふさわしい能力を有することを確認した。</p> <p>したがって、本学学位規程第18条第1項に基づいて、博士（文学 立命館大学）の学位を授与することが適当であると判断する。</p>